

甲州アルプス *Haute Route Challenge*

山岳縦走競技



この大会は、甲州アルプスオートルートチャレンジの開催運営を行う事業をはじめ、甲州アルプス周辺の地域資源の発掘と利活用のための活動、森に親しむ活動、里山里地再生活動、登山・ランニング・農林業知識の普及啓発に関する各種活動を行い、地域の社会および経済の活性化に寄与することを目的としています。

甲州アルプスオートルートチャレンジ実行委員会

はじめに

コロナ禍で制限されてきた様々な活動ですが、感染症予防策がされ、ようやく各地でイベント再開の兆しが見え始めました。スポーツ界における影響も多大なものがありました。徐々に以前のような活気を取り戻しつつあります。2022年現在、全国に420を超えるトレイルランニングレースがある中で、コロナ禍で開催できた大会は数えるほどしかありませんでした。甲州アルプスオートルートチャレンジは、2021年大会の開催を成功させることができましたが、大会を主催する側である大会事務局の徹底した感染予防策と、開催されるまちや地元の方々のご理解とご協力、さらには医療機関との相互理解など、まさにまちが「一枚岩」になって作り上げる『一体型』の体制によって成されたものです。ご尽力いただいた皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。今後も、山沿いの地域の課題となる過疎化・高齢化問題、里山の荒廃に歯止めをかけ、里山再生・活用のいち手段として根付いていくように努力してまいります。

第3回大会よりスタートしました小中学生の部門、そして昨年第5回大会からスタートしました大人のビギナーカテゴリーにつきましては、本年度も開催いたします。自然とのふれあいの場作りをするとともに、アウトドアアクティビティとして、また競い合う活動を通して心身の成長を促すためのきっかけ作りをしていきます。里山にすむ子ども達には特に山との関わり方、楽しみ方を知る機会になってくれたらと願います。

マラソン・ロードレースと同様、競技運営上の予期せぬ事態やレース中の事故も発生することがあります。新型コロナウイルス感染拡大に伴う各種イベントの開催自粛を決断する団体もまだまだあります。大会の運営においては行政や警察、周辺住民等各所との調整、ランナーの安全確保のための細心の注意が必要であり、山岳スポーツで起こりうるリスクにきちんと対応できる組織作りが不可欠です。本大会事務局では、大会要項・規約と併せ、山岳縦走競技会の安全・安心な運営に必要と考えられるガイドラインを作成し、より楽しく安全に大会を運営できるよう取り組んでまいります。

本イベント、『甲州 ALPS Haute Route Challenge』が地域の活性化に貢献できるイベントとして根付いていくように、今できることを最大限にやっていきたいと考えています。

実行委員長 小川 壮太



目次

はじめに

1. 大会要項・規約 P.4~P.9
2. 参加者の事前準備 P.10
3. コース設定 P.11
5. 医事対策 P.14~P.21
5. 天候対策 P.22
6. 大会役員・ボランティア P.23



1. 大会要項・大会規約

【大会要項】

主催 甲州アルプスオートルートチャレンジ実行委員会

後援 甲州市、甲州市教育委員会

大会会長 甲州市教育長 小林 俊彦

実行委員長 甲州市観光大使 小川 壮太

運営協力 甲州大菩薩ネルチャークラブ

大会 HP 甲州アルプスオートルートチャレンジ <https://kousyu20171119.jimdo.com/>

開催日 2022年11月6日(日)

会場 甲州市塩山ふれあいの森総合公園(山梨県甲州市塩山小屋敷1897)

選手受付 11月5日(土)午後1時から午後5時(全カテゴリー)

11月6日(日)午前2時から午前3時30分(オートルートチャレンジ、クレーシャ108)

午前4時から午前5時30分(リリールートチャレンジ)

午前7時から午前8時30分(マロニエルートチャレンジ)

午前7時から午前9時30分(トレイルクエスト)

| | | | | | | |
|-------|--------------------|---------|----------|-------|----|--------|
| 種目・定員 | クレーシャ108(オート+マロニエ) | 105km | 累積獲得標高 | 6400m | 定員 | 50名程度 |
| | オートルートチャレンジ | 67km | 累積獲得標高 | 4600m | 定員 | 250名程度 |
| | リリールートチャレンジ | 52km | 累積獲得標高 | 3500m | 定員 | 250名程度 |
| | マロニエルートチャレンジ | 33km | 累積獲得標高 | 1800m | 定員 | 250名程度 |
| | トレイルクエスト | 1・2年の部 | 1.5kmコース | | 定員 | 50名程度 |
| | | 3・4年の部 | 3.0kmコース | | 定員 | 50名程度 |
| | | 5・6年の部 | 4.5kmコース | | 定員 | 50名程度 |
| | | 中学生の部 | 4.5kmコース | | 定員 | 50名程度 |
| | | 高校・一般の部 | 4.5kmコース | | 定員 | 50名程度 |

○新カテゴリー「クレーシャ108」について

クレーシャ108は、1ラップ目にオートルートチャレンジコース、2ラップ目にマロニエルートチャレンジコースを回る周回レースです。1ラップ目終了後、ドロップバッグを回収し、準備ができ次第リスタートとなります。1ラップ目制限時間となる午後4時までにリスタートし、全カテゴリー制限時間である午後10時までにフィニッシュできれば完走です。1ラップ目をクリアし、2ラップ目がクリアできなかった場合、オートルートチャレンジ完走となりITRAポイントは付与されますが、オートルートチャレンジカテゴリーの着順は付きません。

| | | |
|--------|-----------------------|--------------|
| スタート時刻 | オートルートチャレンジ・クレーシャ 108 | 午前 4 時 00 分 |
| | リリールートチャレンジ | 午前 6 時 00 分 |
| | マロニエルートチャレンジ | 午前 9 時 00 分 |
| | トレイルクエスト 1・2年の部 | 午前 9 時 30 分 |
| | 3・4年の部 | 午前 10 時 00 分 |
| | 5・6年の部 | 午前 10 時 30 分 |
| | 中学生および高校・一般の部 | 午前 10 時 30 分 |

ペーサー※ 今大会よりクレーシャ 108、オートルートにペーサーの帯同が可能になります。

クレーシャ 108：大和自然学校から 1 ラップ目終了時に交代可能（交代する時は次のペーサーにピブを渡す）

オートルートチャレンジ：大和自然学校（JR 中央本線 甲斐大和駅より 3 km）から

※ペーサーのスタート地点には、各自で移動をお願いいたします。

ドロップバッグ クレーシャ 108 およびオートルートに出場の選手は、大和自然学校にてドロップバッグを受け取ることができます。クレーシャ 108 に出場の選手は、1 ループ終了後にも受け取ることができます。スタート前に荷物預かり所にお預けください。

| | | | | |
|------|--------------|------------------|----------------------------|-----------------|
| 制限時間 | クレーシャ 108 | 10 時間（午後 10 時まで） | 1 ラップ目 | 12 時間（午後 4 時まで） |
| | オートルートチャレンジ | 17 時間（午後 9 時まで） | | |
| | リリールートチャレンジ | 15 時間（午後 9 時まで） | | |
| | マロニエルートチャレンジ | 11 時間（午後 8 時まで） | | |
| | トレイルクエスト | 1・2年の部 | 1 時間程度（午前 10 時頃をめぐりに） | |
| | | 3・4年の部 | 1 時間程度（午後 11 時頃をめぐりに） | |
| | | 5・6年の部 | 1 時間程度（正午 11 時 30 分頃をめぐりに） | |
| | | 中学生および高校・一般の部 | 1 時間程度（午後 11 時 30 分頃をめぐりに） | |

※各部門の最終ランナーがゴール後に次のカテゴリーがスタートします。
スタート時間は目安となりますのでご承知おきください。

| | | |
|-----|--------------|----------------|
| 参加賞 | クレーシャ 108 | ：大会オリジナルキャップ |
| | オートルートチャレンジ | ：大会オリジナルキャップ |
| | リリールートチャレンジ | ：大会オリジナルTシャツ |
| | マロニエルートチャレンジ | ：大会オリジナルヘッドバンド |
| | ペーサー | ：大会オリジナルヘッドバンド |
| | トレイルクエスト | ：大会記念品（学校パン） |

完走証 大会当日に完走証を発行

| | | | |
|------|--------------|------------|-----------------|
| 参加料金 | クレーシャ 108 | ：25,000 円※ | |
| | オートルートチャレンジ | ：17,000 円※ | ※ペーサー帯同は+5000 円 |
| | リリールートチャレンジ | ：13,000 円 | |
| | マロニエルートチャレンジ | ：10,000 円 | |

ふるさと納税枠（オートルート、リリールート、マロニエルート 各 20 名）

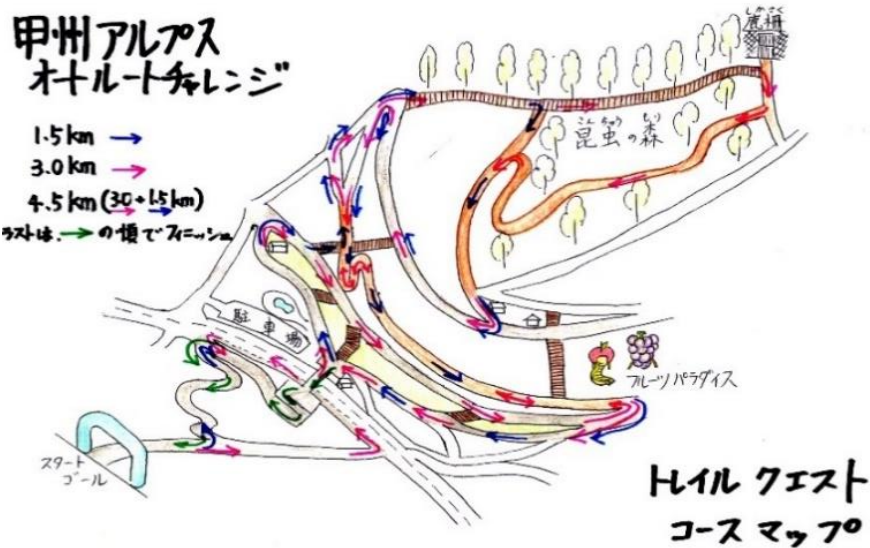
オートルート：60,000 円、リリールート：50,000 円、マロニエルート：40,000 円

トレイルクエスト：小学生・中学生・高校生：2,000 円、一般 3,000 円

参加資格

- オートルートチャレンジを 12 時間以内に完走している方。または同等の力量がある方。
- オートルートチャレンジ：18 歳以上の男女（高校生不可）。過去 3 年間※で 50km 以上の国内外のトレイルランニングレースを制限時間内に 2 大会以上完走している方。またはリリールートを完走した方。
- リリールートチャレンジ：高校生以上の男女。過去 3 年間※で 40km 程度のトレイルランニングレースを制限時間内に完走している方。
- マロニエルートチャレンジ：中学生以上の男女。20km 程度のトレイルランニングレースまたはロードレースを制限時間内に完走している方。
- トレイルクエスト：起伏のあるランニングコースを 1 人で安全に走ることができる児童・生徒
- 全コース共通：規定のコースを迷わず通過し、帰って来られる方。

※2019 年 6 月 1 日～2022 年 8 月 31 日



クレーシャ 108 (105 km・6400D+)

1 周目：オートルート (以下参照)

2 周目：マロニエルート (以下参照) ※オートルート帰路を逆走するかたちでリスタート。公園は周らない。

オートルートチャレンジ (67km・4600mD+)

ふれあいの森総合公園—文殊院入り口—登山道分岐—恩若峰—キリガ尾根分岐—源次郎岳—上日川峠—親水広場—小屋平バス停—天狗棚山—狼平—小金沢山—牛奥雁ヶ腹擦山—黒岳—湯ノ沢峠—大蔵高丸—ハマイバ丸—米背負峠—大谷ヶ丸—曲沢峠—景德院—竜門峡入り口—大志戸遊歩道—三角コンバー隠れっ窪—源次郎岳登山口—蛤岩—牛奥沢—キリガ尾根分岐—マロニエ山—中原—牛奥トンネル—登山道分岐—文殊院入り口—ふれあいの森総合公園

リリルートチャレンジ (50km・3500mD)

ふれあいの森総合公園—文殊院入り口—恩若峰—キリガ尾根分岐—源次郎岳—上日川峠—親水広場—小屋平バス停—天狗棚山—狼平—小金沢山—牛奥雁ヶ腹擦山—ペンションすずらん—上日川林道—源次郎岳登山口—蛤岩—牛奥沢—キリガ尾根分岐—マロニエ山—中原—牛奥トンネル—登山道分岐—文殊院入り口—ふれあいの森総合公園

マロニエルートチャレンジ (30km・1800mD)

ふれあいの森総合公園—文殊院入り口—恩若峰—源次郎岳—蛤岩—牛奥沢—キリガ尾根分岐—マロニエ山—中原—牛奥トンネル—登山道分岐—文殊院入り口—ふれあいの森総合公園

【大会規約】

参加者は以下の条項を読み、これらの規約に従って下さい。これらの注意を怠った場合は、失格を含む厳重な処分を行うことがあります。

- ①参加者は、必ず大会役員およびコース誘導員の指示に従ってください。
- ②大会中に体調不良等により中止（棄権）する場合は、コース上の役員・誘導員に必ず申し出て下さい。
- ③大会役員により、体調不良やケガなどでチャレンジ続行が困難と判断された参加者は中止（棄権）となる場合があります。

失格事項

- ①大会中にゴミを投棄したり、指定コース外に立ち入ったりするなど、自然環境保護に違反する行為があった者
- ②大会役員およびコース誘導員の指示に従わなかった者
- ③年齢・性別を偽っての申告や、申し込み者本人以外が参加する等の不正行為があった者
- ④所定の時間内に関門を通過できなかった者および参集制限時間内にゴールできなかった者
- ⑤ナンバーカードを着用しなかった者（ナンバーカードは折り曲げたりせず、正面に見える様に付けてください）
- ⑥イヤホン等で耳をふさぎ、周囲の音が聞こえない状態で走行した者（補聴器具は除く）
- ⑦大会関係者以外の入山者の通行を妨げ、危険な走行をした者
- ⑧必携品を携行しないで走行した者（各エイドで必携品チェックがあります）
- ⑨その他不正行為およびマナー違反があった者
- ⑩過度な仮装を行い、狩猟時期のハンターを困惑させる可能性がある格好で出走しようとする者

開催中止基準

気象警報の発令時や天候等の影響でコースが荒れている、また参加者の安全が確保できないと判断した場合は原則中止とします。なお、天候等の推移を見て安全に開催できると判断した場合は、大会の再開またはコース変更して開催する場合があります。

大会中について

○エイドステーション

コース内には7ヶ所（オートルートチャレンジコース）のエイドステーション（給水・給食所）を設けます。水、コーラ、バナナ、梅干しなどの補給物の他、地元の名産品を用意しますが、各自必要と思われる水分、行動食をご自身で携行してください。

○必携品

【クレーシャ108、オートルート、リリールート、マロニエルート】

ココヘリ※、熊鈴、コースマップ、携帯電話、ファーストエイドキット（絆創膏、固定テープ、ポイズンリムーバー、エマージェンシーシート等）、ライトと予備バッテリー（ライト2個でも可）、ホイッスル、マイカップ、レインウエア上下（ゴアテックスか同等の防水機能を有するもの）、長袖の上着、上着3レイヤー（レースウエア、長袖の上着、レインウエアを含む）、下着2レイヤー（レースウエア、レインを含む）、グローブ、キャップまたはヘッドバンド、水1L以上、携行食

※2022年大会より、携行するココヘリは各自でご用意ください。これにより参加者が何らかのアクシデントに巻き込まれてしまった際により迅速な対応が期待できます。ココヘリにつきましてはこちらをご参照ください。

<http://hitokoko.com/cocoheli>

○推奨品

予備ライト、ポール（保護キャップの着用推奨）、サングラス、トレイルラン専用のシューズ、チェーンスパイク（降雪・凍結時）

【トレイルクエスト】

必携品：手袋、推奨品：キャップまたはヘッドバンド等、転倒時に頭を守れるもの、タイツ

○リタイアする場合

途中、何らかのアクシデントでチャレンジを中止する場合は、必ずコース誘導員やエイドステーション担当に名前とナンバーカードの番号を伝えてください。その場で伝えることができない場合は大会本部まで連絡してください。参加者の所在確認が取れない場合は捜索することになりますのでご注意ください。

○コース誘導について

コース上には誘導看板や誘導テープ（幅10cm程度の水色のビニールテープ）を分岐点や分かりにくい箇所、危険箇所など各ポイントに設置してあります。コースが分からなくなった時などは、むやみに先に進んだりせず、冷静に来た道に戻り、あらためて看板やテープを確認して正しい道を進むようにしてください。200mに1ヶ所ずつには必ずテープを設置します。200m進んでも誘導テープが見つからない場合は、来た道に戻ってください。コース誘導員は交差点や道路横断地点に配置していますが、コースは必ず自分自身で確認して進んでください。なお、コース誘導員の指示には必ず従ってください。指示に従わない場合には失格となる場合があります。

○参加者は以下のことに特段の注意を払い、レースに参加してください。

①自然保護に関すること

- ・コース以外への立ち入りは絶対にしないよう注意してください。先行者を追い越す時やハイカーとすれ違う時も必ずコース上を通行してください。
- ・コース上でのポール等の使用は、自然保護の観点からゴムキャップの着用を推奨します。

②ハイカーや地元住民および参加者への配慮

- ・コース上にはハイカーなどの入山者や地元住民も通行しています。追い越しやすれ違いの際には、積極的に声をかけて挨拶を交わし、不快な思いをさせないように、道を譲り合って通行するように心がけてください。
- ・レースを支えてくれる地元関係者やボランティアの方への感謝の気持ちを忘れないでください。

③安全管理に関すること

コースは全て自然の中にあり、状況は常に変化しています。参加者はこのことをよく理解し、無理をせず十分に注意を払ってコース踏破に挑んでください。

- ・山岳耐久コースであるため迅速な救急対応ができない場合も想定し、健康管理には十分留意し、事前にメディカルチェックを受けるなど万全な体調でコース踏破に臨んでください。
- ・コース上では風雨、霧など気象状況の変化で天候が急変し、低体温症になることが予想されます。事前の準備も入念に行なってください。
- ・大会本部には医療スタッフを配置し、ケガや病気の応急処置に備えています。また、コース上のエイドステーション（給水所）には救護車両を待機させ、ケガ人やリタイア者の搬送などを行えるようにしています。
- ・ケガや病気で具合が悪い参加者がいた場合、お互い助け合い、最寄りのスタッフまたは大会本部へ連絡をしてください。電話番号はナンバーカードに明記してあります。
- ・大会主催者は、参加者の事故やケガなどに備えて傷害保険に加入しています。

お問い合わせ

甲州アルプスオートルートチャレンジ実行委員会 事務局

☎ 070-2632-9969 ✉ <https://kousyu20171119.jimdo.com/>



2. 参加者の事前準備

現在、日本各地で開催されているトレイルランニングレースに参加する方々は、日々のトレーニングを十分に積み、山の知識・経験を持ち合わせている人ばかりではありません。大会を開催する前に、自分の安全を確保し無事にレースを踏破するためのアドバイスをしたり、他の参加者や入山者に迷惑をかけないためのルール・マナーを理解したりする必要があります。それらにつきましては、大会ホームページ、ポスター、パンフレット等で参加者に周知徹底していきます。

(1) 体調管理

体調が悪い時には大会に参加できません。自身の体調をよく考えて大会参加を決断していただきます。特に大会当日のスタート時間が早いので、オートルートチャレンジ参加者は原則として前泊必須としています。事前のブリーフィングでも「風邪気味」、「睡眠不足」、「朝食抜き」等のコンディション下で大会に参加することがないように、注意喚起を行います。

(2) 栄養指導・水分補給

山中を駆け巡るとい運動は、ロードラン以上にエネルギーを消費します。自身のパフォーマンスに合った量の飲食物を携行することを必須とします。大会中はエイドステーションを約 10km ごとに設置し、補給食を提供するとともにエイド出発時には十分な飲み物（1L 以上）を必携とすることをルール化します。

(3) 天候対策

天候に合わせたウェアリングを紹介し、必携品にも上着 3 レイヤー（レースウエア、長袖の上着、レインウエア）、下着 2 レイヤー（レースウエア、レインウエア）の必携をルール化し、携行していない者は失格とします。その他、大会当日の天候に合わせて、スタート前に必要なウエア類の携行を呼びかけます。

(4) 試走会の実施

大会コースを安全に通行するため、詳しいコースマップを公開するとともに大会コースの試走会を実施します。試走会では、コンディショニング、栄養・水分補給、ウェアリング、コース通過時のルール・マナーについても紹介し、自己責任のもと安全に大会を踏破するためのノウハウを指導します。

(5) 参加条件のクリア【参加資格】

- クレーシャ 108：過去 4 年間(2018 年 6 月 1 日～2022 年 8 月 31 日)で 50km 以上の国内外のトレイルランニングレースを制限時間内に 2 大会以上完走している方で、過去オートルートを 12 時間以内に完走するか、それと同等の力量のある方。
- オートルートチャレンジ：過去 4 年間(2018 年 6 月 1 日～2022 年 8 月 31 日)で 50km 以上の国内外のトレイルランニングレースを制限時間内に 2 大会以上完走している方。
- リリルートチャレンジ：過去 4 年間(2018 年 6 月 1 日～2022 年 8 月 31 日)で 40km 程度のトレイルランニングレースを制限時間内に完走している方。
- マロニエルートチャレンジ：20km 程度のトレイルランニングレースまたはロードレースを制限時間内に完走している方。
- 全コース共通：規定のコースを迷わず通過し、帰って来られる方。
- トレイルクエスト：起伏のあるランニングコースを 1 人で安全に走ることができるお子様

3. コース設定

コースを設定するにあたっては、参加者がより楽しく安全に帰って来られるようにするなど大会主催者側の意向を加味しつつも、参加者が道路および登山道を占有することなく、地域住民や他の入山者に支障をきたさないように配慮します。道路使用にあたっては警察と、また登山道使用にあたっては林務事務所、土地所有者等、関係各所と十分に協議してコース設定を行います。

(1) スタート・フィニッシュ地点

参加者が集まるだけでなく、多くの観衆で混雑することが予想されます。案内・誘導を徹底して行い、また、導線の確認を事前に行うなどし、危険の排除に努めます。

(2) コース全般

大会を開催するにあたって、参加者だけでなく観衆にも気持ちよく観戦してもらえるように、会場設営に工夫をします。地域住民の迷惑とならないよう、また参加者・大会役員の安全を確保できるよう注意します。

- ・一般市民への交通規制事前通知（市広報、立哨員、立て看板等）
- ・歩行者横断箇所の安全確保（誘導員の立哨、交通法規の遵守）
- ・途中関門での打ち切り時間の徹底、天候悪化等の外的要因による迅速な中止の判断
- ・緊急搬送時のルート確保

(3) コース整備

①給水

各エイドステーションにて、1人あたり水 1.5L 以上を準備します。エイドステーションは 10km に 1ヶ所の間隔で設置します。不足する場合に備えて、エイドステーションの近くで水道水の提供をご協力いただけるボランティアをお願いしたり、飲水可能な湧水を確保したりするなど、不測の事態に備えます。

②給食

各エイドステーションには、給水の他にコーラやチョコレート、スナック菓子、梅干し、バナナなどの補給食に加え、後半にはうどんやパンなどの軽食も用意し、栄養補給ができるよう準備をします。

③トイレ

スタート・ゴールエリアだけでなく、各エイドステーションにてトイレを使用することができます。常設トイレがない箇所には、仮設トイレを設置します。コース上にある施設にも、参加者のトイレ使用のご協力を申請します。

④ごみ対策

本大会では、ごみをコース上に投棄した者は失格とします。しかし、意図せずごみを落としてしまうこともあり、コース上にはごみも出ます。スイーパーがごみ拾いをしながら後走を務めます。また、コース後には現状復帰し、動植物の生態系にも支障が出ないように、モニタリングを含めたコースチェックを入念に行います。

4. 感染症予防対策

コロナ禍、スポーツと感染症予防対策を両立し、スポーツの様々な可能性を引き出すことで、山梨県の飛躍を実現する新しいビジネスモデルを構築します。これまでのスポーツイベントの在り方に感染症予防対策を徹底的に織り込み、新しいスポーツの形を作り、最先端をいくスポーツイベントのモデルとして、山梨の魅力の発信や地域コミュニティの活性化につなげます。

(1) 参加資格

①健康チェックについて

選手および大会参加者は、過去2週間の健康チェック（検温、風邪の諸症状の有無の確認等）を各自で行ってください。

②大会が発信するオンライン説明会を視聴し、現地ルールに従うことに合意したことを参加条件とします。

(2) スタート・フィニッシュエリア

選手は、ソーシャルディスタンスの確保、手指の消毒、マスク着用など基本的な感染症予防対策を徹底します。受付にて検温（37.5℃以下、ワクチン接種による発熱は除く）、風邪の諸症状の有無の確認を行います。スタート前には、必携品チェックも含め全てをクリアした選手のみ手首にチェック済みを示すリストバンドを装着した選手のみスタート・フィニッシュエリアに入場できます。

(3) エイドステーション

エイドステーションでは、手指の消毒をした選手のみが入場できます。補給物は全て参加者がセルフで補給をし、エイドスタッフとの接触を防ぎます。

(4) 大会主催者および大会スタッフのもつ権限

大会実行委員会および大会スタッフは、感染症予防対策として、発熱が認められる者、体調不良など健康状態に疑わしい症状が見られる者に対して、強制的に参加辞退、途中棄権を宣告する権限を有します。

(5) 選手管理

①選手待機場所をグラウンドスタンド席にすることで密をさけます。

②各カテゴリーのスタート時間を大きくずらすことで、スタート・フィニッシュエリアに集まる人の数を分散させます。

③各施設の入場時には手指の消毒およびマスクの着用を徹底し、長時間の利用・滞在にならないようにアナウンスする。

(6) 会場レイアウト (塩山ふれあいの森総合公園)

感染症予防策として、徹底したゾーニングを行います。

○本部テント1張、計測テント1張、救護テント1張、更衣テント2張、受付テント2張

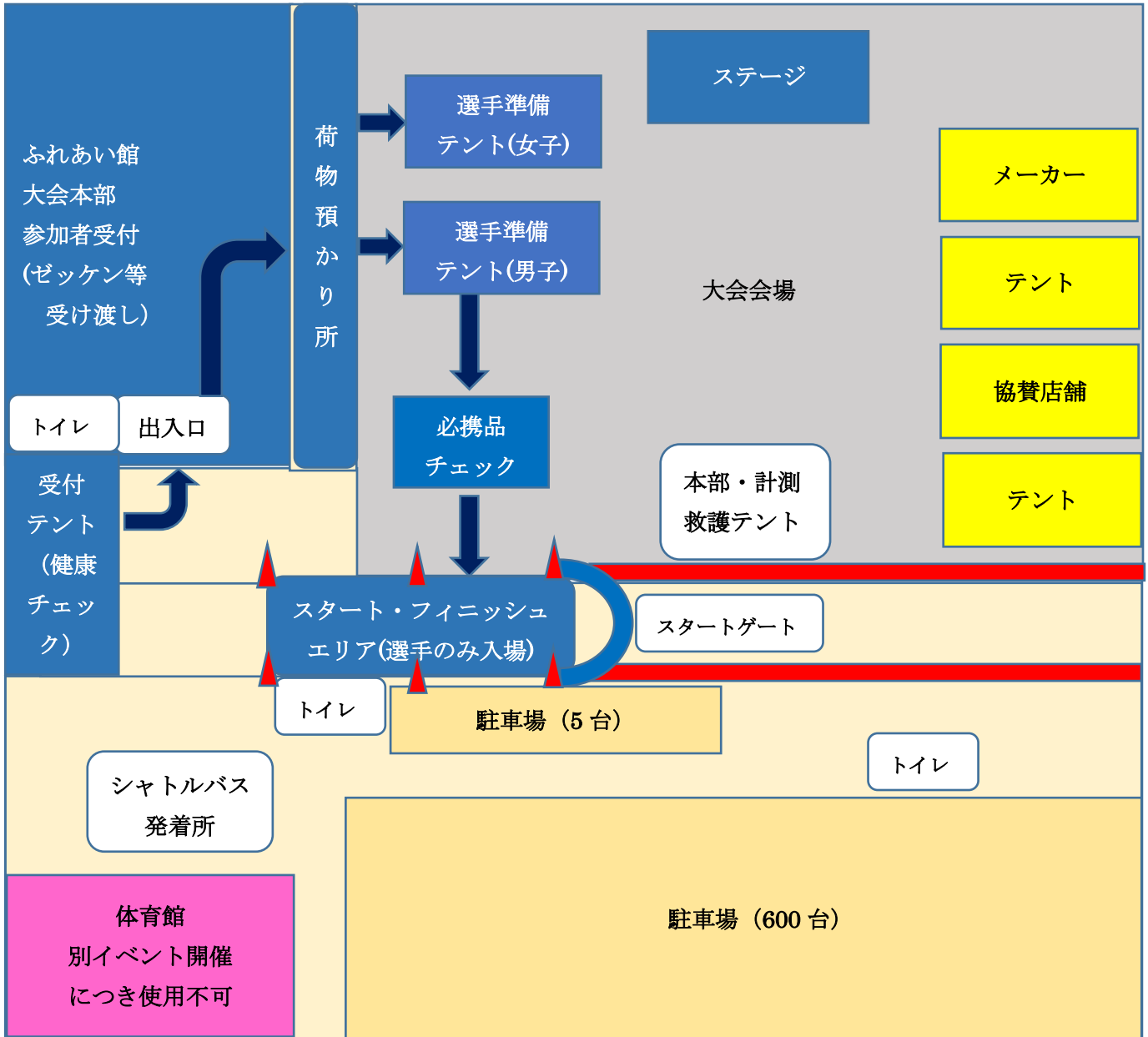
○ふれあい館前テント 受付：11/6(2時～11時)、荷物預かり・休憩所(2時～22時)

○駐車場は600台分のスペースを確保。出入口はグラウンド南北の2箇所となります。

○会場設営は5日13時より開始。6日22時より撤収作業を行います。

○公園内のトイレ6箇所(会場付近は3箇所)を使用します。

○投光機(3時～6時、16時～22時の間はグラウンド照明も点灯)を設置します。



このエリア内は、受付にて健康チェックを受けた選手のみ入場・使用とします。

5. 医事対策

本大会は、国内屈指の山岳耐久チャレンジ大会であるため、制限時間も厳しく、完走率はそう高くないと予想しています。ケガや体調不良によってチャレンジを断念する参加者もいることを想定し、万全の態勢で参加者を迎え、適切な医療サービスを提供するための方策を考慮します。

(1) メディカルチームの設置

大会中における心肺停止などの事故を想定し、医師をリーダーとした組織を構築します。医療救急マニュアルを作成し、医療救護という観点でレース自体を安全で楽しめるものにします。AEDは全部で8台、スタート・ゴール地点に1台、各エイドステーション6箇所に1台ずつ、そしてスーパースポーツが1台携行することで安全確保に努めます。

(2) 救護所

ケガや病気に対して適切な対応を取る救護所をスタート・ゴール地点および各エイドステーションに併設します。救護所があることを標識で示します。救護所ではAED、ファーストエイドキットの他、ドリンク、氷、タオル、ワセリン、毛布を準備します。応急手当を行い、医師の指示に従います。

(3) 救急搬送体制、救急車要請手順

救急車の要請から重篤な状態のランナーをどのように救急車に乗せ搬送するのか。救急車の病院までのルート、家族等への連絡までを緊急事態に備えて体制を作っておきます。

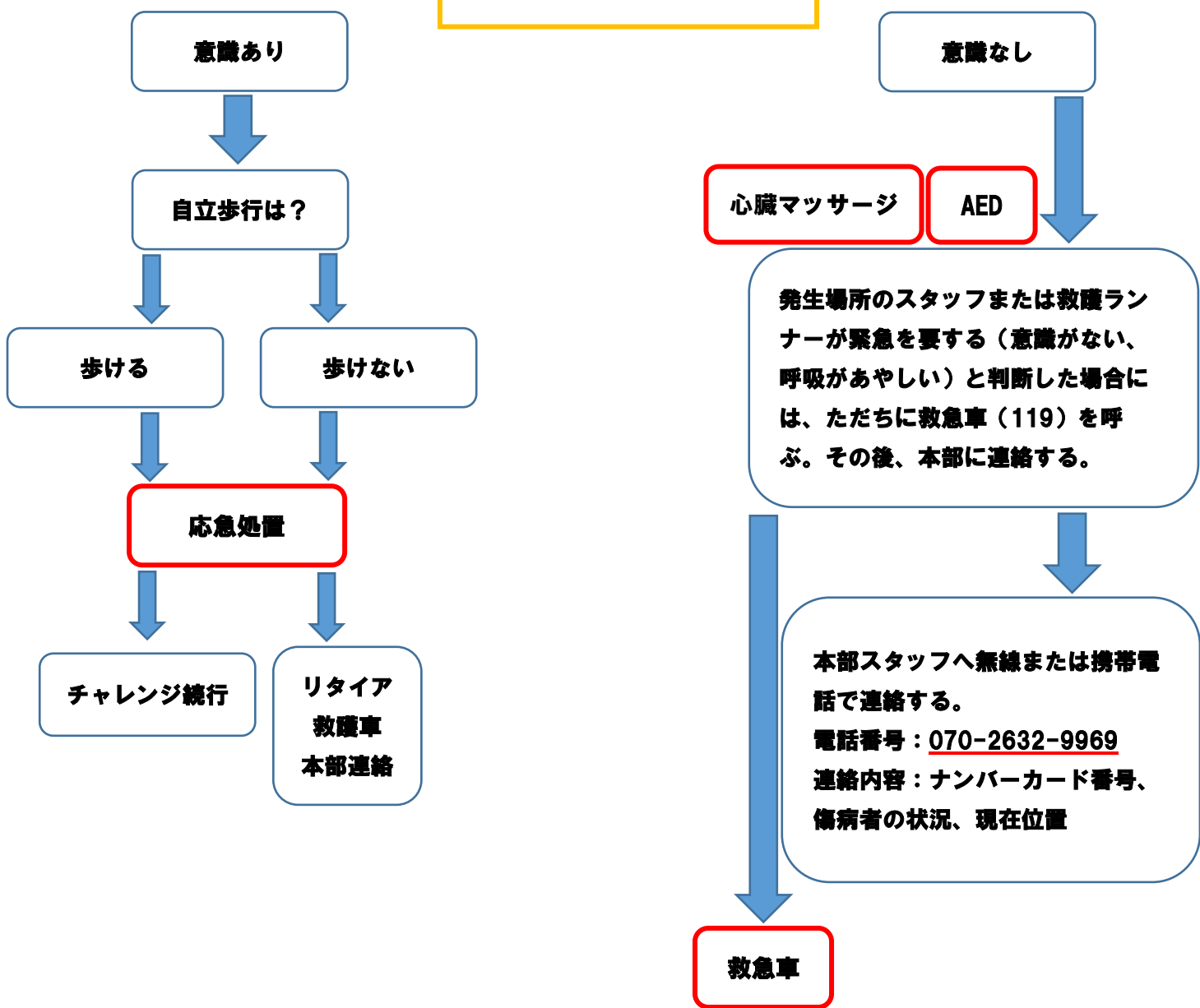
(4) 迅速かつ的確な指示・報告・連絡・相談・連携

携帯電話の電波が届かない箇所の立哨員や、通電箇所の少ないキャリアの携帯電話を持つ立哨員と的確に情報共有できるようにIP無線機（通信テスト済）を使用します。



救急対応マニュアル（大会本部用）

体調不良・ケガ 発生時の対応手順



AED 設置場所

スタート・ゴール
上日川峠（長兵衛小屋）
第2CP（湯ノ沢峠エイド）
第3CP（大和自然学校エイド）
第4CP（深沢峠エイド）
第7CP（ペンションすずらんエイド）

近隣病院

東山梨消防本部 0553-32-0119
塩山市民病院 0553-32-5111
勝沼病院 0553-44-1167
加納岩病院 0552-22-2511
山梨厚生病院 0553-23-1311

医療体制レベル（甲州 ALPS HRC トリアージ）

| 傷病のランク | 定義 | 対応 |
|----------------|---------------------------------|---|
| 赤 （緊急） | 意識なし 明らかに意識がおかしい 多量の外傷性出血 | 現地または本部から 119 番要請 反応がない場合は蘇生処置 止血処置 |
| 黄 （準緊急） | 意識あり 歩行不可能 | 評価と応急処置 救護所/収容ポイントへの移送 |
| 緑 （低緊急） | 意識あり 歩行可能 | 評価、必要に応じて応急処置 救護所/収容ポイントへの移送を検討 |

- ・ 緊急の度合いにより、上記の 3 つのランクに分けて対応する。
- ・ 意識/歩行以外に病態悪化の懸念がある場合はランク変更も検討する。

傷病者対応フロー

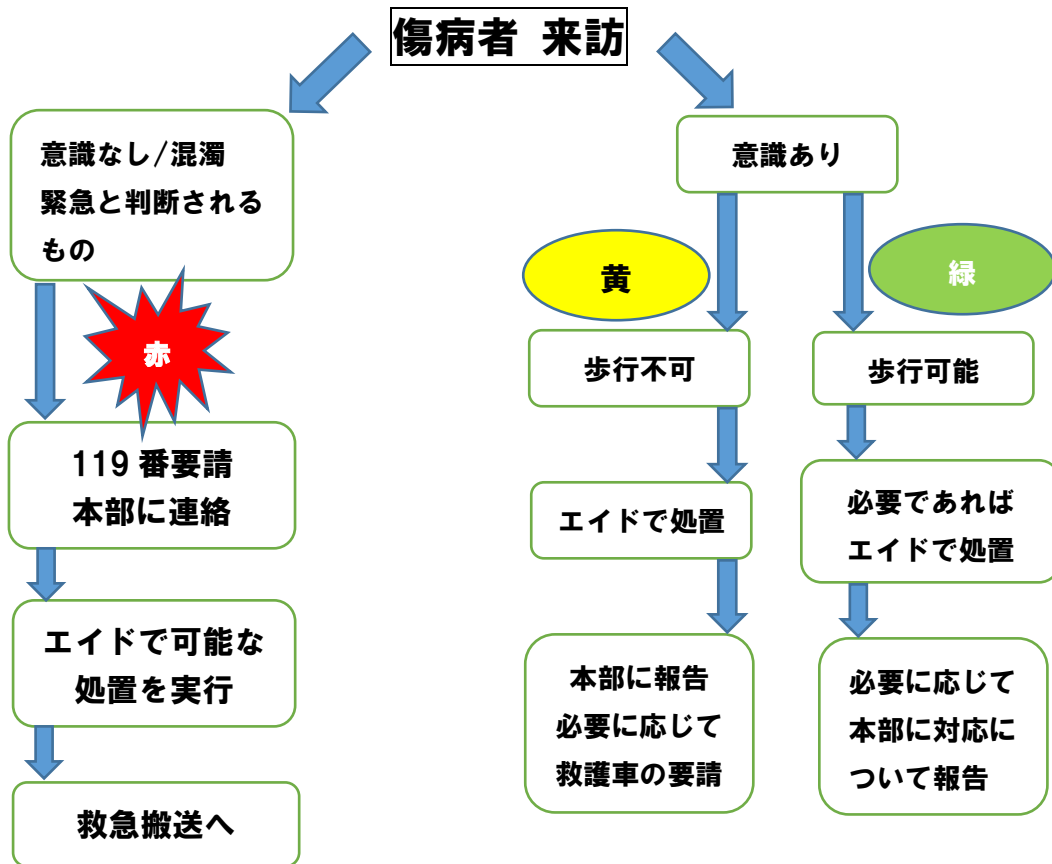
【コース誘導スタッフ向け】



- ・ 対応は本部または救護スタッフ、救護ランナーの指示に従う
- ・ **赤**で本部が不通の場合、現場の判断にて 119 番要請する
- ・ 危険箇所では傷病者を発見した場合、近寄らずに本部に連絡する

傷病者対応フロー

【ボランティアリーダー・エイド救護スタッフ向け】



| 傷病のランク | 定義 | 対応 |
|----------------|---------------------------------|---|
| 赤 （緊急） | 意識なし 明らかに意識がおかしい 多量の外傷性出血 | 現地または本部から 119 番要請 反応がない場合は蘇生処置 止血処置 |
| 黄 （準緊急） | 意識あり 歩行不可能 | 評価と応急処置 救護所/収容ポイントへの移送 |
| 緑 （低緊急） | 意識あり 歩行可能 | 評価、必要に応じて応急処置 救護所/収容ポイントへの移送を検討 |

本部への連絡事項 本部TEL 070-2632-9969

- ①第〇エイド
- ②傷病の種類・トリアージランク
- ③傷病者のナンバー、氏名、性別
- ④行った対応

傷病者緊急連絡アクションカード

【一般スタッフ用】

①本部に無線または電話で連絡

本部TEL 070-2632-9969

②連絡内容

私（氏名）より大会本部へ傷病者情報。

配置場所〇〇で/〇〇地点付近で、

- ・意識のない選手
- ・□□をケガした選手
- ・△△の症状を訴えている選手
- ・トリアージ赤黄緑の選手

に 対応中。

傷病者のナンバーカードは〇〇、

傷病者の氏名は（ ）です。

| 傷病のランク | 定義 | 対応 |
|----------------|---------------------------------|---|
| 赤 （緊急） | 意識なし 明らかに意識がおかしい 多量の外傷性出血 | 現地または本部から 119 番要請 反応がない場合は蘇生処置 止血処置 |
| 黄 （準緊急） | 意識あり 歩行不可能 | 評価と応急処置 救護所/収容ポイントへの移送 |
| 緑 （低緊急） | 意識あり 歩行可能 | 評価、必要に応じて応急処置 救護所/収容ポイントへの移送を検討 |

2022 甲州 ALPS HRC 大会救護本部情報記録用紙

| 時間 | 場所 | NO./氏名 | ランク/状態 | 対応、経過・リタイア等 |
|----|----|--------|--------|-------------|
| : | | | 赤 黄 緑 | |
| : | | | 赤 黄 緑 | |
| : | | | 赤 黄 緑 | |
| : | | | 赤 黄 緑 | |
| : | | | 赤 黄 緑 | |
| : | | | 赤 黄 緑 | |
| : | | | 赤 黄 緑 | |

- ・ 大会本部に滞在する医師に記載をお願いする
- ・ 大会本部で傷病者情報の記録に使用する（無線情報のメモ）
- ・ 大会中の傷病者伝達
- ・ 大会後にデータ集積し、より安全な体制を構築するために利用
する

2022 甲州 ALPS HRC 傷病者記録表

エイド名： _____ 記載者： _____

| 時間 | ビブ No. | 傷病者 氏名 | ランク/状態 | 対応等 | 経過・リタイア等 |
|----|--------|--------|--------|-----|----------|
| ： | | | 赤黄緑 | | |
| ： | | | 赤黄緑 | | |
| ： | | | 赤黄緑 | | |
| ： | | | 赤黄緑 | | |
| ： | | | 赤黄緑 | | |
| ： | | | 赤黄緑 | | |
| ： | | | 赤黄緑 | | |
| ： | | | 赤黄緑 | | |
| ： | | | 赤黄緑 | | |
| ： | | | 赤黄緑 | | |

- ・ 各エイドにて傷病者記録を行う
- ・ 救護スタッフまたはボランティアリーダーが記載する
- ・ 救護ランナー、競技マーシャル、スーパー等 移動救護班が対応した傷病者の情報は、原則として大会本部にて報告を受け、記載する
- ・ 大会中の傷病者情報伝達、大会後のデータ集積に利用する

2022 甲州 ALPS HRC 傷病者詳細記録表

エイド名： _____ 記載者： _____

| | |
|-------------------------------|--------------|
| トリアージランク / 赤 黄 緑 | |
| 選手氏名： _____ | ビブ No. _____ |
| 生年月日： _____ 年 _____ 月 _____ 日 | 年齢 _____ 歳 |
| 住所： 〒 _____ | |
| 連絡先 TEL： _____ | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|--|--------|--|------|---|------|---|------|---|------|---|----|---|
| 発生場所： | | | | | | | | | | | | | |
| 傷病の種類： | (外傷・内因性) | | | | | | | | | | | | |
| 主訴： | | | | | | | | | | | | | |
| 現病歴： | <table border="1"> <tr> <td colspan="2">【時間経過】</td> </tr> <tr> <td>傷病発生</td> <td>：</td> </tr> <tr> <td>本部覚知</td> <td>：</td> </tr> <tr> <td>要救接触</td> <td>：</td> </tr> <tr> <td>エイド着</td> <td>：</td> </tr> <tr> <td>退室</td> <td>：</td> </tr> </table> | 【時間経過】 | | 傷病発生 | ： | 本部覚知 | ： | 要救接触 | ： | エイド着 | ： | 退室 | ： |
| 【時間経過】 | | | | | | | | | | | | | |
| 傷病発生 | | ： | | | | | | | | | | | |
| 本部覚知 | | ： | | | | | | | | | | | |
| 要救接触 | ： | | | | | | | | | | | | |
| エイド着 | ： | | | | | | | | | | | | |
| 退室 | ： | | | | | | | | | | | | |
| 既往歴 | | | | | | | | | | | | | |
| 内服/アレルギー： | | | | | | | | | | | | | |

| 時間 | 所見および経過 | 処置 |
|----|---------|-----|
| | | |
| | | 診断： |

転帰：転送（救急・救急車・自家用）帰宅 その他
 搬送の場合：搬送先 _____

6. 天候対策

スタート・ゴール地点と最高到達点（小金沢山・2014m）では、気象条件は大きく違いがあります。悪天候時の対応は迅速に、余裕をもって判断を行います。

（1）暑さ対策

気温や天気に関わらず、十分な水分を携行し、塩分やマグネシウムも併せて補給するなど、体調への気配りを忘れないよう、エイドステーションのスタッフや立哨員が要所で声かけをしています。

（2）雨天対策

コース上、路面が滑りやすい箇所では、特に気を付けて通行できるよう、立哨員が声かけをしています。悪天候の予報が出ている場合には事前にコース変更を行い、安全確保に努めます。天候の急変には速やかにコース変更を行い、エスケープルートを使って参加者を安全な場所に誘導します。

（3）悪天候時・自然災害時の対応

落雷、強風・突風の他、巨大地震等、予測が不可能な自然現象が発生した場合、万が一のための緊急連絡体制、避難・誘導の方法・手順を整理し、大会役員に徹底します。

（4）参加者への伝達、誘導方法

緊急連絡体制により、大会役員に指示を行い、参加者へ伝達する際のことを考慮して、ハンドスピーカー等を各エイドステーションに配備しておきます。声かけや誘導を行う際には、参加者や周りの観衆がパニックにならないよう、落ち着いた言動を心がけます。



7. 大会役員・ボランティア

運営に携わる方々にはそれぞれの役割がありますが、自身の持ち場だけでなくできるだけ周辺業務の流れも理解し、不測の事態が発生した際、誰と連絡を取ればよいのか、少なくとも誰に聞けば分かるのかを共有しておきます。

(1) 事前準備

マニュアルおよび緊急連絡体制を整備し、大会役員に内容を周知徹底するために事前のミーティングを行います。また、参加者や沿道・登山道で応援する観衆への対応として、スタート時間、制限時間、次の〇〇までの距離、トイレの場所等、よく聞かれそうな質問は、あらかじめチェックしてすぐに応えられるよう準備しておきます。

(2) 適正人員

参加者が安全に通行できるように必要な、適正人員を確保し、適時交替するなどして立哨員がいないということがないようにします。警察からの道路使用許可条件等を参考に関係機関と連携しながら適正な人数を配置します。

(3) 大会役員とボランティアとの役割分担

大会役員とボランティアスタッフとの役割分担を明確にします。お互いが協力し合い、自身の責務を果たせるよう連携をとっていきます。

(4) 大会役員、ボランティアの募集

関係各所に大会役員、ボランティアスタッフの協力要請を行います。入山しての立哨員には、山登りの経験者をお願いします。

(5) 苦情・要望への対応

苦情を受けた際にまず重要なこととして「傷口を広げない」「ダメージを最小限にとどめる」ことを第一に対応します。そのためにも、ルールを熟知し、全体の状況を把握でき、できるだけ丁寧に対応・説明できる大会役員（実行委員長）を窓口に対応します。ミスは素直に認めて謝罪し、その対応策を早急に検討して示すようにします。あらかじめ想定される対応マニュアルを整備し、分からないことはすばやく担当部署に確認をするよう確認をしておきます。

